

令和元年11月21日

第13回 企業技術説明会を開催します ～新技術の更なる活用に向けて～

新潟港湾空港技術調査事務所では、民間企業等で開発された新技術等について、『管内事業で有効活用するための情報収集』、『技術開発の現状と動向の把握』及び『官民の情報共有』を行うことを目的として、民間企業等の皆様から整備局職員等に対して技術の概要を発表いただく「企業技術説明会」を開催いたします。

開催にあたり民間企業等から応募頂いた発表技術について、当日のプログラムが確定しましたのでお知らせします。

記

- 開催日時：令和元年11月28日（木）14：00～17：00
- 場所：国土交通省北陸地方整備局
新潟港湾空港技術調査事務所（新潟市中央区入船町） 3F会議室
- プログラム
 - 開会 14：00～
 - 技術発表 14：10～16：55

【発表技術内訳】

	発表時間	技術名称	発表企業名
1	14:10 ～ 14:35	D・Box工法	パンフィックコンサルタンツ株式会社
2	14:35 ～ 15:00	流電陽極出力電流解析工法	日本防蝕工業株式会社
3	15:00 ～ 15:25	ネットバッファ工法（ケーソン目地透過波低減法）	前田工織株式会社
	15:25 ～ 15:40	休憩	
4	15:40 ～ 16:05	高炉スラグ細骨材を用いた 超耐久性コンクリート「ハレーサルト」	ランダス株式会社
5	16:05 ～ 16:30	3次元データを活用した 消波工の設計から維持管理の効率化技術	株式会社不動テトラ
6	16:30 ～ 16:55	ICTを適用したブロック据付工	株式会社本間組

お問い合わせ先

国土交通省北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所

TEL 025-222-6115

技術開発課 伊賀、早田

第13回 企業技術説明会 発表技術一覧

	発表企業名	発表技術	技術概要
1	パシフィックコンサルタンツ株式会社	D・Box工法	従来、埋立地等のN値が1以下の軟弱地盤については、ダンプやクレーン等の重機の走行は困難とされていた。しかしこの工法を用いることにより、トラフィカビリティの改善・振動低減が可能となる。低コストでさらに工期も短縮できる浅層部の特殊土のうを用いた地盤改良技術である。
2	日本防蝕工業株式会社	流電陽極出力電流解析工法	従来の陽極調査は、潜水作業により陽極の寸法を計測して消耗量を求め、残寿命を推定していた。本技術は潜水作業を行わずに、護岸上からの電位計測により残寿命を推定することができる技術である。
3	前田工織株式会社	ネットバッファ工法 (ケーソン目地透過波低減法)	繊維製網状の緩衝材をケーソン間目地部に挿入することで、透過波力を約80%減衰することができる。外力が低減できることで施設の長寿命化が図られ、陥没リスクの抑制が可能である。また、防砂板損傷による陥没発生後の機能復旧に際して、コスト・工期ともに縮減が可能となる。
4	ランデス株式会社	高炉スラグ細骨材を用いた 超耐久性コンクリート「ハレーサルト」	ハレーサルトは、セメントの一部に高炉スラグ微粉末を使用し、細骨材の全量に高炉スラグ細骨材を使用した、高強度と耐塩害性、耐凍害性、化学的劣化およびそれらの複合劣化に優れたコンクリートである。本技術は、海洋環境、雪寒地域、温泉地帯など、塩害や凍害、硫酸劣化が想定される環境において、高耐久性な構造物を構築し、環境負荷を低減する技術である。
5	株式会社不動テトラ	3次元データを活用した 消波工の設計から維持管理の 効率化技術	消波工の3次元測量点群や、ブロック部品を用いて乱積を再現するシミュレーションを活用し、消波工の設計から維持管理までを効率的に行うことができる技術である。ブロックの乱積を再現するシミュレーションにより、かみ合わせを考慮したブロック配置が可能となり、ICT施工への展開が容易となる。また、維持管理・更新のコスト算定時に必要となる消波工の劣化度判定やブロックの嵩上げ数量算出を3次元測量点群を用いて効率的に行うことができる。
6	株式会社本間組	ICTを適用したブロック据付工	i-Construction推進の背景から、ブロック据付作業等の構造物工事においてICT活用の拡大が進められている。無人航空機(UAV)による航空測量、ナローマルチビーム測深技術およびICT起重機船を適用したICTの活用について工事実績を踏まえて紹介する。